

初めての「自分タイム」

羽 場 邦 子

1 初めての「自分タイム」オリエンテーション

本校では、低学年での生活科をもとに3年生で初めて総合的な学習に取り組む。総合的な学習の4領域のうち「自分タイム」は、子どもたちにとって新鮮である。それは、自分のやりたいことを追究する時間だからである。「自分タイム」を自分なりに計画するためには、これまでの学習活動を基盤に置くことが不可欠である。また、6年生までの「自分タイム」を見通した時、3年生のオリエンテーションが最も大切である。本実践では、オリエンテーションの活動を中心に述べる。

(1) 「自分タイム」の基盤となるもの(オリエンテーション)

下記の①～⑥の活動には、自分で考え、選択したりで決めたりする場がある。これらの体験が全てが「自分タイム」の基盤になると考える。

- | |
|-------------------------------|
| ① 低学年の「生活科」を想起して |
| ② 上学年の「自分タイム」の活動を知って |
| ③ 「しののめまつり」の活動を想起して |
| ④ 3年生国語の学習での「説明書を作ろう」の学習を想起して |
| ⑤ 3年生環境学習「太田川探検」を想起して |
| ⑥ 日常生活の中で、各教科の学習の中で |

① 低学年の「生活科」を想起して

「1・2年生の時、生活科でどんな学習をしたでしょう。」と問いかけた。子どもたちからたくさん発言があった。それらのものの中から主なものを次に挙げる。

「野菜をそだてたよ」

・春に野菜を育てる。育てる野菜は自分で決める。自分で決めた野菜の植え方や育て方を自分で調べる。子どもたちは、図書室で調べたり家庭で聞いたりした。例えば、とうもろこしや大豆、枝豆、トマトなど、何センチになったら芽かきをするのかを調べ自分で芽かきをした。収穫した野菜は、家庭で調理していた。

「みんなで遊べるものを作ろう」

・材料集めから作り方まで自分で工夫し、みんなで遊ぶものを作る。

「元宇治たんけん」

・(山グループ)(海グループ)に分かれ、それぞれ遊び方を工夫し活動した。

「えんこう川たんけん」

・学校の近くの川へ行き、かにをとったり、川で遊んだりした。

② 上学年の「自分タイム」の活動を知って

5年生の「自分タイム」の作品やまとめたノートを紹介した。「料理」「星」「編み物」「手芸」「ゲーム」「漫画」「スケッチ」などがあった。まとめる方法として、図書室で調べる、写真に撮る、インターネットから情報を得る、スケッチする、などがあった。子どもたちは「先生、写真に撮りたいよ。」「こんなふうにならいたらいいんだね。」などの感想があった。

③ 「しののめまつり」の活動を想起して

本校の児童会活動に「しののめまつり」がある。2年生から各学級で広場を開く。自分たちも楽しみ、みんなも楽しむことのできる広場が目標である。

④ 3年生国語の学習での「説明書を作ろう」の学習を想起して

国語で「説明書を作ろう」の単元がある。子どもたちは説明書を作るために、実際にいろいろな活動に挑戦した。「作ってねおもしろいよ紙でっぼうの作り方」「買うよりとくな花作り」「かんたんクロールのしかたをおぼえよう」「キックベースのやり方」等、工夫して書いた40冊の説明書が誕生し、学級文庫に並んだ。

⑤ 三年生環境学習「太田川探検」を想起して

環境学習で「太田川探検」を行った。上流のきれいな川で、スケッチしたり、川遊びをしたりして楽しんだ。遊びは自分たちで選択した。

⑥ 日常生活の中で、各教科の学習の中で

本学級の子どもたちは、紙芝居や絵本を作るのを好む。休憩時間に作っては朝の会や帰りの会で紹介している。理科、社会科などで調べ学習も行っている。

(2) 「自分タイム」って何だろう

これまでの学習を振り返り「自分タイムで自分だったらどんなことをしたいかな」と問いかけ、次の項目でワークシートに記述した。

- ① 「自分タイム」ってどんな活動だと思いますか。
- ② あなたはどんなことをしてみようと思いますか。
- ③ なぜそう思ったのですか。
- ④ どのように活動したらよいでしょう。

① 「自分タイム」ってどんな活動だと思いますか。

「自分で好きな活動をすること」「自分の挑戦みたいなもの」「自分で進んで調べたり実験したりする時間」「いつもはなかなかできないことをする時間」などの言葉があった。「自分」という記述に子どもたちのこだわりを感じた。

② あなたはどんなことをしてみようと思いますか。

・草花の研究 ・スケッチ ・編み物 ・ありの研究 ・昆虫の研究 ・料理
・野球 ・ハムスター ・サッカー ・犬 ・つり ・きょうりゅう など

③ なぜそう思ったのですか。

「好きだから」という記述が最も多かった。他に「上手になりたい」「将来野球選手になりたい」「編み物をプレゼントしたい」などの記述があった。

④ どのように活動したらよいでしょう。

実際にやってみて、写真にとる、図鑑で調べる、インターネットで調べる、友達となかよく活動する、ノートにまとめる、絵本にするなどの記述があった。

2 「自分タイム」をやってみよう

(1) 活動計画

前時のオリエンテーションを踏まえて、もう一度「自分タイム」の計画を立てた。

ワークシートの項目

- ① 「○○○タイム」と名前をつけよう
- ② こんなことをするよ
- ③ どうやってやろうかな（じゅんぴするもの、場所、やり方など）
- ④ こんなふうにしてみんなに教えてあげたいな

① 「○○○タイム」と名前をつけよう

子どもたちは、自分の活動にいろいろな名前をつけた。いくつか紹介する。

草花大作せんタイム ほくのゆったりつりタイム こん虫スーパータイム 大まじんタイム

② こんなことをするよ

前時のやってみたいことから活動を決めた。

スケッチ8名 あみ物8名 つり5名 ありの研究4 料理3名
こん虫3名 犬2名 野球2名 草花調べ1名 ハムスター1名

③ どうやってやろうかな

準備する物、場所、やり方などワークシートに記述した。子どもが聞きにくるまで活動を見守るようにし、教師がはじめから助言や指導を行わないようにした。自分のやりたいことを計画するのはおもしろいのだろう。グループで活動する子どもたちはいろいろな意見を出し合っていた。一人で活動する子どももよく考えていた。そのうちに「先生、〇〇はどうしたらよいですか」「図書室で調べてきてもよいですか」「〇〇は学校にありますか」「〇〇を家からもってきてもよいですか」「自分タイムの時間だけでなく、休憩時間や家でやってもよいのですか」等の声が聞かれるようになった。

④ こんなふうにしてみんなに教えてあげたいな

・絵本を作る ・説明書を作る ・ノートにまとめる ・紙しばいを作る等

(2) 活動の様子

ワークシートの項目

- ① 今日は、どんなことをしましたか
- ② 次はどのようにしたいですか
- ③ 今日の自分タイムをふりかえりましょう

野球を研究している子どもは、「先生カーブの握り方を教えてあげよう。」と

言って握ってみせてくれた。マフラーを編む子どもは、友だちどうして教え合ったり本を参考にしたり家の人に相談したりして活動していた。右の写真は、「あみものタイム」の作品である。自分で「へん

あみものタイム

- ① マフラーを作って少ししばいしたからほどいた。
- ② マフラーをもっと長くしたい。
- ③ まんぞくしてない!

しんバッグ」と名付けた。ひもをはずすと、マフラーと小物入れに変身する。ボタンを付けて工夫している。



3 初めての「自分タイム」は

子どもたちの中には活動を変更する者もいた。「ありの研究」をめざした子どもは、スコップを手にありを探していたが、冬眠中のありをあきらめ、活動を変更した。担任は、その姿を見守った。「野球」をしていた子どもたちは、試合中にトラブルになることもあった。失敗もよい経験である。また、「スケッチ」を選んでいながら友達の活動を見て「けん玉」に変更した者もいる。そんな姿の中に3年生の自然な姿を見る。(本当にやりたいことは、なかなか見つからないよね。いろいろ挑戦してみようよ。)と話したくなるようである。

子どもたちは「自分タイム」を楽しみにしている。家庭や休憩時間にも活動する姿が見られる。「料理」を選択した子どもは、実際の調理を家庭で行った。保護者の協力を得てケーキを焼いていた。その様子を写真に撮り、紙芝居でまとめている。「けん玉」の子どもは、絵本にまとめている。「つり」の子どもは、保護者といっしょにつりを楽しんでいる。「恐竜」に夢中の者もいる。いつも大事そうに図鑑を抱えている。自分の家の愛犬を観察して「犬の飼い方」をノートにまとめている

者もいる。3月末の活動のまとめと振り返りが楽しみである。今、始まったばかりの「自分タイム」でたくさん学んでほしいと願っている。

本年度の活動をふりかえって

自分タイム領域では、3学年、5学年、6学年での自分タイムの学習について、成果や課題についてふりかえった。成果については次の2点を視点とした。

- ① 実感のもてる体験になっていたか。
- ② 考えたり判断したり行動したりする基礎となる体験になったか。

1. 成果について

①について

総合的な学習についてふりかえるとき、まず、その学習が子どもたちにとって、実感のもてる活動になっていたかどうかについて再確認したい。「実感」という言葉は、本校の研究のキーワードでもあるが、自分タイムでは、一人一人の興味や関心に基づく追究活動を、自ら計画し、実行し、表現する活動であるので、「実感のもてる」活動であることはまちがいはないといえる。

②について

「こうしたから失敗した」「次はここをポイントにしたい」などの活動ごとのふりかえりが生かされていた。これらは、子どもたちの活動の様子、あるいはふりかえりの記述から見ることができた。前期、後期の活動の積み重ねの中で、計画や見通しにそった行動ができるようになってきていると考える。

2. 課題について

(1) 評価について

自分タイムの学習では、評価について従来の教科のように考えていくことはしない。現時点で、子どもたちに、自分らしさを追究して行く力がついているかとか、あるいは子どもたちが「自分がどういう人間か」ということについては判断しにくい。6年間の積み上げがあつてこそその力であろう。総合的な学習では、大きなスパンで見取る必要がある。

(2) 運営について

総合的な学習の4本柱を同時進行していくことは現状では難しい。学年の年間計画の見直しが必要である。

3. これからも大切にしたいこと

与えられたものでなく、自分から、したいことを追究することによって、学習の仕方や自分自身の今の力を見つめ、さらに、今後の生き方を見つけてほしいと願うものである。

自分タイムは、やりたいようにやらせているのではない。指導者として、めざす子ども像があり、それに向かつての支援を大切にしたい。本気で追究できる環境の保障など、今後に向けて整えていきたい。